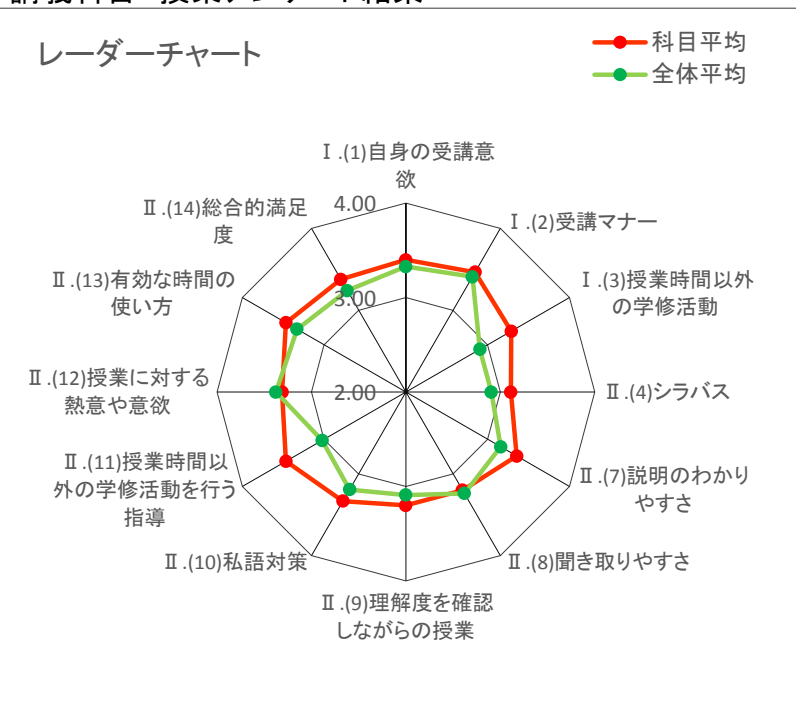
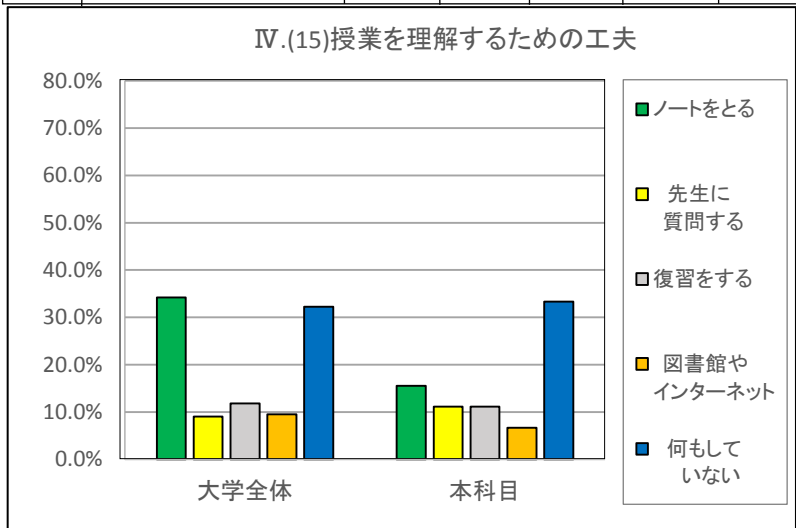


講義科目 授業アンケート結果



※レーダーチャートの平均は4段階評価 4(そう思う)、3(ややそう思う)、2(あまりそう思わない)、1(そう思わない)

〈※複数選択可項目〉	ノートをとる	先生に質問する	復習をする	図書館やインターネット	何もしていない
IV.(15) 授業を理解するための工夫	15.6%	11.1%	11.1%	6.7%	33.3%



	設問No	科目平均	全体平均
受講姿勢	I.(1)	3.40	3.33
	I.(2)	3.47	3.41
	I.(3)	3.29	2.91
講義内容・方法	II.(4)	3.11	2.90
	II.(5)		
	II.(6)		
	II.(7)	3.36	3.16
	II.(8)	3.20	3.24
	II.(9)	3.20	3.09
	II.(10)	3.33	3.19
	II.(11)	3.47	3.03
	II.(12)	3.31	3.38
	II.(13)	3.47	3.33
満足度	II.(14)	3.38	3.24

	本科目平均	全体平均
自身の受講姿勢	3.39	3.21
I.(1)~(3)		
講義内容・方法	3.31	3.17
II.(4)~(13)		
総合的満足度	3.38	3.24
III.(14)		

アンケート結果に対する教員のフィードバックシート

授業年度	2015年度 後期
時間割番号	13109
科目名	言葉の理解
教員名	

①授業計画の達成度について

「言葉の理解」は「教科に関する必修科目」として2年次後期に開講されている科目であり、3年次前期の「国語科指導法」(教職に関する必修科目)につながる科目である。本時の受講者の大半は教職志望者である。科目の特性上、受講者自身の将来設計像が学修態度や意欲に大きく影響している。このことが「総合的満足度」や科目の「難易度」が「低い」方向へのシフトに反映されている。テキストの構成と毎時間のトピックとが対応していることから、授業計画に従った授業運営になっており、受講者は科目全体の見通しを持って学修を進めることができた。

②授業の進め方について

本科目では毎時間ごとの学習内容に関するレポート(A4・800字程度)を必須課題として設定している。授業時間以外の学修活動を促す役割を果たしており、このことはアンケート結果からも読みとることができる。「(7)説明のわかりやすさ」「(9)理解度を確認しながらの授業」と「(8)聞き取りやすさ」とが相反していることから、伝達情報量と説明スピード等のバランスについては配慮したい。

③アンケート全体を通しての自己評価、及び、今後の授業改善計画について

「必修科目」であることから到達度に関するレベルアップは必須である。必修科目が果たすべき役割に十分留意しつつも、受講者の意欲を喚起し、より学びがいのある内容を模索し構築したい。その際、「(10)私語対策」「(13)有効な時間の使い方」等については継続して意識し取り組んでいきたい。受講者数による制限はあるものの、少人数討議やプレゼン発表等の工夫についても模索したい。